

2024 年度 事業計画・予算

学校法人 森ノ宮医療学園
大阪市東成区中本 4 丁目 1 番 8 号

I 2024 年度 事業計画について

2024 年度事業計画は第 3 期中期経営計画の初年度となり、この中期経営計画を実現していくための具体的な行動計画を策定している。

1. 第 3 期中期計画（2024 年度～2028 年度）

① 学園目標

西日本トップ！

② 学園全体方針にあたっての背景と意図

第 1 期「関西圏トップクラス」、第 2 期「関西圏トップ」とステップアップしてきた中期経営目標は、経営資源の集中投資により短期間で質的・量的競争力を強化するという経営戦略の起点として、また、学園の教職員のポテンシャルやステークホルダーの理解・協力を誘起・集約するサインポスト（道標）としての機能を発揮してきた。

その結果、10 年前の 2014 年度、第 1 期中期経営計画スタート時に比べて、事業収入、在籍学生数、教職員数等の学園規模はほぼ倍になるとともに、各種の指標で関西圏トップ或いはトップクラスを実現するに至っている。

しかしながら、学校法人、なかでも本学園のような医療系の学校法人にとって「人生 100 年時代」を迎えた社会に対する貢献の度合いには限りがなく、「西日本トップ」の質的な追求と確保はひとつのマイルストーン（一里塚）と思われる。

また、わが国全体としての「右肩上がり社会」が終焉を迎えるとともに、教育機関に打ち寄せる「人口減」「少子化の波」は厳然と立ちはだかる事実として、経営的視点はいうまでも無く、本来の教育の機関、研究の機関、地域社会貢献の機関としての位置づけを明確化して、広く社会からの認識と期待に添う体制の構築は一層重要になっている。

一方で、学園の内部環境的には、2021 年度からスタートした総投資額約 35 億円の「新投資計画」の借入返済が 2024 年度以降から本格化するうえ、ウェルランゲージスクールをはじめとする外国人介護人材育成事業の中止等により、財務計画の見直しを迫られるとともに、施設設備の老朽化や人的リソースの構造変化への対応も急務となってきている。

これらの外的環境と内部状況を踏まえると、第 3 期中期経営計画の初年度にあたる 2024 年度では徹底した内部充実と質的向上が重要だと考えられるが、「人生 100 年時代」に対する貢献や他学園よりも若い人的資源を将来的に発揮できるよう能力を引き出し、可能性や発展性を活かし、「西日本トップ」という次のステップに踏み出す初年度の挑戦として 10 年先・20 年先に向けた基盤固めを着実に進めていくこととしたい。

③ コンセプト（「西日本トップ！」に向けた組織の行動、戦略の基盤）

「繋（つな）ぐ」、「すべてのステークホルダーのために」

④ 中期経営計画における基本戦略（「西日本トップ！」の方法論）

- ・「量」や「モノ」だけではなく、「質」や「工夫」により、限られた経営資源の最大活用を図る。
- ・2024 年度から 2026 年度にかけて、第 4 期中期経営計画となる 2029 年度からの「次なる 5 年」の見極めと戦略の可視化を行う（組織体制を含め）。

2. 2024 年度事業計画の方針・主要事業

①法人本部

- ・2024 年度は中期経営計画初年度であり、各部署においては 5 年後の計画達成に向けて基礎となる事業を計画し、実施していく。
- ・学園全体として有機的、かつ合理的に機能するガバナンスおよびマネジメント体制を確立するため、法人本部内の組織の再編を行い、各部署間の連携を図る。
- ・資金収支 3 億円を達成すべく、予算管理方法の見直しを図るとともに、各事業部門の収支分析を行い、適正な予算配分等を検討していく。
- ・人事評価システムの導入を進めていくとともに、人事制度全体の見直しを実施する。
- ・学園全体のブランド価値を高めることを目的として、ブランド戦略の在り方を検討していく。
- ・「第 3 の柱」となる事業体の発掘プロジェクトを推進していく。

②森ノ宮医療大学

- ・2024 年度は第 3 期中期経営計画の初年度であり、第 3 期中期経営計画目標「医療系総合大学として西日本トップ」を達成すべく、各施策に取り組む。
- ・限られたリソースの中で創意工夫とオリジナリティを意識して“本学にしかないもの”を構築することで、他大学との差別化・ブランディングを図り「"Number one" based on Originality"」を目指す。
- ・新中期計画期間におけるさらなる発展を目指す根幹概念として、「在学生・卒業生・保護者・関連機関・地域の自治体/企業/住人・教職員、受験生これらすべてのステークホルダーの満足度向上」を意識する。
- ・大学発展の推進力としてセンターの重要性を意識する。各センターの役割・ミッションを明確にし、教職連携を強化し効率的に稼働させる。
- ・2024 年度新設「言語聴覚学科」における適切な教育・研究体制の構築を図るとともに、新棟を効率的に稼働させる。新棟食堂は外部にも開放し地域に根付く、開かれた大学を目指す。
- ・2024 年度からの 3 学部 8 学科体制を医療系総合大学の完成形と意識し、IPE プログラム（学科共同カリキュラム）のさらなるブラッシュアップを図り、横断的かつ独創的なプログラムを新たに検討する。全学的プログラムを改訂・刷新し、2023 年度に準備・構築した学部内 IPE プログラムを開始する。
- ・2024 年度内に IPE シミュレーションセンター（西棟 6F）を完成させる。運営組織体を構築し、教育効果/学生満足度/広報的インパクトが高まるプログラム・稼働体系を検討し、2025 年度からの活用を目指す。
- ・「大学の知」による地域貢献・医療業界貢献・社会連携活動をさらに加速させ、本学のプレゼンスを高める。特に 2024 年度～2025 年度は、万博に最も近い大学として、万博プロジェクトメンバー・学長室・学生支援課・総務課・学生会を中心に積極的参画に向けた準備を行う。
- ・インクルーシブ医科学研究所を中心として、関西圏競合大学内トップの研究業績（科研獲得件数・PUBMED 掲載論文数）を目指す。
- ・大学院看護学専攻領域の充実を図る。同領域の適切な人員配置・助産学専攻科との連携

による母性領域の充実・老人看護専門看護師（CNS）コースの検討・外部への魅力発信等による募集力強化を図り、看護領域の研究活性化を目指す。

- ・募集力強化と経営基盤の安定化を大学として高い優先順位で取り組む。募集広報・大学広報の両面を充実させ、募集力強化・大学ブランディング向上に取り組み、オープンキャンパス等のイベント、web 媒体、メディアの効率的活用による、受験生に大きく訴求する広報を展開する。
- ・地方入試を 2024 年度から開始する。地方入試体制・遠隔地居住学生支援体制を新たに構築し、募集力強化対策として地方戦略を展開する。
- ・森ノ宮医療大学附属大阪ベイクリニックによる地域貢献を加速させる。患者数 50% 増加・自費リハを含めたりハビリテーションの充実・再生医療の稼働数増加により、15000 万円/年の売り上げを目指す。リハビリテーション充実を目指しスペース拡大の可否を検討する。
- ・2024 年度からの新たな財務管理手法の実施による財政基盤の安定化を図る。

③森ノ宮医療学園専門学校

- ・2024 年度から導入する iPad を用いた ICT 教育によって、授業の効率化を図るとともに学生一人ひとりに合わせた学習スタイルを実現する。
- ・2024 年度から設置した学修支援センターなどを活用し、成績不振者の早期発見・早期ケアを行うことで、留年者や退学者の減少を目指す。
- ・学生満足度調査の結果等を踏まえて、施設設備や学生サービスの改善を行う。
- ・卒業生や鍼灸整骨院との関係を構築するため積極的なアプローチを行い、本校への理解、愛着度を高め、就職の求人、実習や広報への協力などに繋げる。
- ・就職支援において、就職への理解を深め、高い意識が持てるように情報を提供し、積極的かつ早期の行動を促すことで高い就職決定率を達成する。
- ・部署間の連携、職場環境の改善、コスト削減によって、円滑で効率の良い学校運営を目指す。
- ・ステークホルダーを細分化した広報展開、遠隔地における広報戦略などで学生募集力の強化を図る。

④森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール

- ・森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクールの教育事業は 2024 年度より、学校法人大阪キリスト教学院（以下、OCC）へ譲渡、移管することとなったが、OCC との連携を図り、状況に応じて移籍した学生への支援を行っていく。

Ⅱ. 2024 年度 財務方針・予算概要

1. 財務方針

2024 年度は、金融機関への借入返済が本格化し、ウェルランゲージスクールの外国人日本語教育と介護人材育成教育事業の中止により、これまでの「経営資源の集中投資により短期間で質的・量的競争力を強化する」という財政運用では「毎年度のキャッシュフロー黒字 3 億円以上」は困難と思われる。

このため、2024 年度においては、有利子負債の削減を最重点に①毎年度期初における現預金残高「年間支出額の 1/2 20 億円以上」、②毎年度のキャッシュフロー黒字 1 億円以上を目標とし、これまで未着手であった施設修繕積立・退職金積立などを特定預金へ積立を行えるよう中長期的な財政基盤の安定化を図る。

2024 年度と翌 2025 年度中には、これら目標を達成するための方法論を含めて決定すべく検討を進める。

2. 2024 年度の予算概要

(単位：千円)

計算書	科目	2024 年度予算	2023 年度予算	増減
資金収支予算書	学生生徒等納付金	3,989,354	4,128,142	-138,788
	前年度繰越支払資金	2,248,000	2,924,578	-676,578
	人件費支出	2,374,650	2,418,172	-43,522
	教育研究費支出	1,438,385	1,486,334	-47,949
	管理経費支出	576,168	667,952	91,784
	借入金利息支出	38,500	29,218	9,282
	借入金返済支出	259,258	279,054	-19,796
	翌年度繰越支払資金	2,012,898	2,248,076	-314,637
事業活動収支予算書	経常収支差額	-213,811	-250,527	-42,744

Ⅲ. 2024 年度 計画の管理

1. 成果報告会におけるヒアリングと確認

2025 年 5 月～6 月にかけて部門別・部署別の「成果報告会」を実施し、担当部署長から理事長、学長（大学）、校長（専門学校）、常務理事、総務・財務会計担当に対して前年度の事業実績の報告を行うことで、1 年の総括的な進捗を管理する。

2. 年 3 回の年度内進捗管理

2024 年度内においては、計 3 回にわたり部署別の進捗状況を把握し、第 3 期中期経営計画及び事業計画の見直し修正も含め必要な対応を講じて、その状況を理事会に報告する。

3. 第 3 期中期計画の財務見通しの適宜更新

年度内に 3 回程度、部署別の財務の予算執行状況等を学園経営質保証会議において把握し、それを第 3 期中期計画の財務見通しに反映し、事業活動の進捗状況とあわせて理事会に報告する。